

目黒区の小学生が北郷で田植えを体験

目黒区緑ヶ丘小学校と北郷小学校の五年生ら



▲なれない手つきながらも一生懸命植えました。



最終日には藤田で
筍掘りも体験しま
した。



田植えの前日、青年
部のみなさんから事
前指導を受けました

五月十四日から十六日までの三日間、東京都目黒区立緑ヶ丘小学校（稲田正克校長）の五年生四十二名が角田市を訪れ、北郷小学校（小野琢磨校長）の五年生三十六名と一緒に、農業体験学習を行いました。

緑ヶ丘小学校が角田で農業体験学習をするようになってから、今年で四年目を迎えます。今年も昨年に引き続き北郷小学校がホスト校になって、五月十五日に交流と田植え作業を行いました。

田植えを行ったのは北郷小学校の南、三〇アールの田んぼ。角田地区農協青年部のみなさんから手ほどきを受けながら、両校の子供たちが協力しあって、線引き、苗運びを行いました。

当日はあいにくの曇り空でちよつと肌寒い天気でしたが、子供たちは元気いっぱい、水の冷たさと泥の感触に歓声をあげながら、苗をひと株ずつついでいねいに植えていきました。

田植え作業後は、北郷公民館とボランティアグループ、北郷小PTAのみなさんから振る舞われたとん汁に舌鼓。北郷小五年生と楽しく交流ゲームを行いました。

緑ヶ丘小学校の子供たちは、十月の稲刈りが楽しみだと秋の収穫に期待を寄せていました。



広がる角田の食農学習の輪！

五月十四日、角田養護学校中学部の生徒三十四名が枝野字真こも地内の水田で田植え体験をしました。

角田養護学校が農業体験学習を実施するのは今年で二年目。約二アールにひとめぼれを作付けしました。

当日は晴天で田植えには最適な日となり、農協青年部枝野支部の部員らが植え方を実演して指導し、養護学校の生徒と先生と一緒に苗を植え付けました。

農協青年部枝野支部南部支部長は「田植えで自然にふれることはとても大切、秋には稲刈りもしてもらいたい」と語っていました。

五月十一日、西根小学校で米づくり体験会が行われました。

この取り組みは西根地区子ども会育成会と農協青年部西根支部が主催。当日は一年生から六年生二十七人、父兄二十人が参加し、高倉新山地区の水田十三アールにもち米の「みやこがねもち」を作付けしました。

子供たちは、膝まで泥だらけになりながら苗をていねいに植えていました。

今後の生育観察は、五年生が行い、収穫後は十月開催予定の「西根つまなびのフェスティバル」で餅つきや西根小ブランド名をつけて販売する予定です。